

## ① 教育行政について

本町の教育行政につきましては、現在、令和8年4月開校に向け「義務教育学校」開設にご尽力されていることと察します。これから新しくなる高田の義務教育学校に子どもやご両親からも期待と不安の声が聞こえてきます。先日、高田小学校にて「第4回高田の未来を語る会」での教職員、保護者、地域住民、そして児童・生徒との4者会議も開催され、「学校名」を決定する協議がなされました。その後、校名は「高田学園」と決定され、町教育委員会に答申したと11月8日に新聞報道にて発表されていました。正式には、本議会にて決定される予定です。この物価高の折、小学校から新たに中学校へ入学するための準備等も保護者にとっては、新たな経済的負担等が掛かってきます。そのような保護者の負担軽減などの支援策を踏まえた教育環境整備と今後の義務教育学校の体制についてお伺いします。

- (1) 高田小学校から高田中学校校舎に移る新5、6年生も中学生と同じく制服を導入する考えはないのか。又、将来的に長与町内全小学校への制服導入についての見解を聞く。
- (2) 小学校から中学校へ入学する際、制服代（夏冬用）、体操服、バック代など相当な経費が掛かるが、1人当たりの保護者負担額はおよそ幾らぐらいか。又、保護者負担軽減のため、補助金の支援の考えはどうか。
- (3) 来年度、新たに統合する高田小学校新5、6年生と町内の小学校を卒業する新1年生に対し制服代1人当たり3万円の補助をする場合、どれくらいの予算が必要となるのか。又、可能な額なのか聞く。
- (4) 開校以降も当面、分離型義務教育学校で進行していくと思うが、いつごろ小中1校の校舎となるのか。それは、近い将来にて実現可能かどうか聞く。

## ② 障がい者福祉行政について

12月3日から9日まで「障害者週間」の期間であります。障がい者への理解促進や障がいのある人の自立、社会参加の促進を図るために、地域でさまざまなイベント等が行われています。今年は、金沢知樹監督の演出の下、9月14日から11月30日まで、約50年に一度と言われる、第40回国民文化祭と第25回障害者芸術・文化祭（ながさきピース文化祭2025）が「文化をみんなに」のテーマで開催されました。

私は、開会式に出演させていただき、又、閉会式も最後の演出を見ることができ、会場皆さまと感動の中で終了することができました。しかし、このような盛大な催し物が天皇皇后両陛下ご出席の下、有名人、アーティストや音楽のプロを交えて一般の参加者との多彩な芸術・文化一大イベントであったにも関わらず、募集に対する倍率が高いため、本町の障がい者も殆ど開会式に参加することができなかったことは、非常に残念なことでした。

本町では、ピース文化祭の一環として「サバカン SABAKAN」の上映会が開催されました。1部、2部共、会場溢れんばかりのお客様で盛会に終了しました。

今回、「ながさきピース文化祭2025」の初開催で感じたことは、障がい児・者も健常者もみんなが手を取り合い、一つになって英知や知恵を絞ればどんなにか素晴らしい芸術作品が完成できるのだと改めて実感した次第です。

そこで、以上のことを踏まえ、ながさきピース文化祭の感動や振り返りと共に、同時に障がい者への対応の点からも住民から課題の声が聞こえてきました。

そこで、以下の点についてお聞きいたします。

- (1) 役場玄関前にて弱者対策として、雨風を気にせず安心して役場内に入れる「屋根付き障がい者等駐車場設置」に向けての進捗状況は如何か聞く。
- (2) 町民文化ホール前の駐車場について、特にイベント開催時は積極的に障がい

	<p>者等が優先的に駐車できるよう、スペースを拡大する配慮の考えはないのか見解を聞く。</p> <p>(3) 障がいのある人もない人も共に「ピースで笑顔の文化と平和を発信」を合言葉に、長崎出身の歌手を招いて、町民（障がい者も健常者も）が共に曲を作成し、参加者全員で合唱を行う「ピース・スマイルプロジェクト」と題して、平和や文化のイベントの際、全国に向けて「平和で笑顔あふれる・ながよ」の活動や発信などする考えはあるのか聞く。</p>
--	--